

謹賀新年



御影堂と大銀杏

おてら

常例十六日講
写経会

一月、二月、八月
はお休み致します

聞く力

住職 蒲原 霊英

浄土真宗ではみ教えを聞くことを「聴聞」と言い、本願寺第八代門主蓮如上人は「ただ仏法は聴聞にきわまることなり」と言われ、聴聞をとりわけ大事にして来ました。では、何を聞くのか。親鸞聖人は、「仏願の生起本末を聞きて疑心あることなし、これを聞といふなり」と示されました。まず、「仏願の生起」とは阿弥陀様が願いを起こされた理由であり、救われ難い私が居るからです。次に、「仏願の本末」とは阿弥陀様の願いの本(因)と末(果)であり、そのような私も含めた、あらゆる衆生(いのち)を救いとるといふ願いを起こされ、その願いを成就されて「阿弥陀仏」という仏様に成られました。

兎角、私達は自分に都合の良い耳障りの良い言葉ばかりに聞く耳を持ちません。例えば、初詣でおみくじを引いて、自分に都合の悪い言葉は「どうせ当たらない」だろうと聞き流し、都合の良い言葉には期待して上機嫌になつて帰つて来るのではないでしょうか。挙げ句の果て、それも実現しなかったら、「あのおみくじは当たらない」等と悪態をつく始末。そんな当てにならないものを当てにしてふらふらと迷い、愚痴を言いつつ悩み苦しみながら生きる自分の「情けない真の姿をきちんと見てみなさい。だからこそあなたを救うんですよ」という阿弥陀様の願いの謂れと、「大丈夫、私にまかせなさい。あなたを決して見捨てることなく必ず救うから安心して生きなさい」と私によびかけて下さっているよび声を、疑う心を持たずにそのまま聞かせていただくのです。

しかし、阿弥陀様の救いは、自分の願いが叶つて自分に都合の良いことが起こるといふ類いのものではなく、「南無阿弥陀仏」のお念仏も願掛けの魔法の言葉ではありません。阿弥陀様と対峙した時、どんなに善人と言われる人でも、隠したくても隠せない、見たくない己の真の姿を見させていただく、自分は本当は駄目でしょうかしようもない奴だと落ち込んでしまつてしまうでしょうか、「たとえ、分かっているもなかなか直せないあなたであつても、あなたのみままで良いんだよ」とのよび声を聞かせていただくと、「こんな私でも、私は私で良いんだ。そのままの私を生かさせてくださいとお願い」と安心できても、また明日も頑張ろうという気になりませんか。しかも、どんなことが起ころうとも阿弥陀様に全部おまかせしていただくと、「そんなことも有るさ。これもご縁」と気が楽になりませんか。そのよび声に気付かせていただくこと、そしてそのままおまかせすることこそが、阿弥陀様の救いです。ですから、「南無阿弥陀仏」のお念仏は、私を救って下さる阿弥陀様への感謝のお念仏です。今年是非聴聞に励まれ、真の「聞く力」を付けてはいかがでしょう。合掌

本願寺本堂内陣修復完成についての消息

門主 大谷 光淳

宗祖親鸞聖人が阿弥陀如来のご本願の救いを明らかにされ、浄土真宗を開かれてからすでに八百年近くになりました。この間、聖人のみ教えを仰ぎお念仏を喜ぶ根本道場として本願寺は建立され、世界各地の僧侶・寺族・門信徒の方々によって今日まで護持されてきました。現在の本願寺本堂(阿弥陀堂)は、宝暦十年(一七六〇年)の再建から二百年余りを経て屋根全般が老朽化したことに伴い、昭和五十四年から五年半の歳月を要して、屋根瓦の全面葺替えとそれに伴う修復や防災設備を施工を行いました。そして、この度は平成二十九年八月から内陣、余間及び三之間の漆喰、金箔、彩色、金具、巻障子、天井画、障壁等の修理、また宮殿修復を行い、今年三月にすべての工事を完了することになりました。これによって私たちは、先人の方々によって建立され伝承されてきた聞法の道場を、また文化財としての貴重な建造物を後世に遺すことができることになりました。このような大事業が完遂できますことは、ひとえに仏祖ご照覧のもと、有縁の皆様のご懇念やご協賛、また重要文化財への公的資金の補助によるものであり、まことに有り難く尊いことです。

省みれば、私たちはものごとを正しく見ることができず自己中心の心に執られて、無常・無我・縁起といった釈尊の教えに背き続ける苦悩の日々を送っています。阿弥陀如来のお慈悲は、そのような私たちを慈しみ、深く悲しんでおられます。如来のおさとりの実実に包まれ、智慧の光に照らし出された私たちは、自身が凡愚の身であると知らされ、お慈悲に救われる喜びと仏恩報謝の思いから、少しでも執われの心を離れなければならぬと気づかされ、阿弥陀如来の悲しみを深めないように生きていくのです。これこそが念仏者の生き方といえましょう。



この生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるように昨年四月の立教開宗記念法要において、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として述べさせていただきました。今年四月には、阿弥陀堂内陣修復完成奉告法要及び慶讃法要がお勤めされます。これからもみ教えに導かれ、我執我欲に迷うわが身を省みるとともに、お慈悲によるこの愚身このままの救いに感謝し、格差や分断が指摘される今日の社会にあつて、互いに敬い助け合ってお念仏の朋の輪を広げてまいりましょう。

唐門の修復工事完了

本願寺の境内南側に建ち桃山文化を今に伝える唐門(国宝)の修復工事が、令和三年九月末に完了しました。

平成三十年六月から三年四月に及ぶ修復は、京都府文化財保護課指導の下で国庫補助事業として行われ、伝統的な技術を用い、素屋根建設、屋根葺替・漆塗・彩色・銕金具・基壇部分の修復工事を行いました。約四十年ぶりの修復を終え、漆の光沢を取り戻し、彩色された彫刻は色鮮やかに輝いています。

